

## 4章 海外実演団体運営状況調査

---

## 4章 海外実演団体運営状況調査

### 1. 概要

海外のバレエ団や実演団体がいかなる組織運営を行っているのか、またどんな課題に直面し、どんな対応を行ったかは、日本のバレエ団スタッフにとって有用な情報だ。バレエは国際的な芸術であるため、バレエ団制作スタッフは海外との交流が多く、海外バレエ団の動向や海外バレエ団を取り巻く社会の動向は、日々の業務にも直結する重要な情報だ。また海外のバレエ団が直面したのと同様の課題に、数か月、または数年後に日本のバレエ団が対応しなければならないことも多くある。しかしながら日本のバレエ団の組織規模は小さく、少人数で運営されており、こうした調査に費やす時間的、人材的余裕はない。

本調査では海外実演団体の運営状況に関する情報を、日本のバレエ団スタッフらへタイムリーに提供することで、バレエ団スタッフ育成と日本におけるバレエ団運営改善につなげることを目的とした。

### 2. 実施概要

- 運営スタッフ向け「海外実演団体運営状況調査」
- レポート発行対象：日本バレエ団連盟会員団体（9団体）の運営スタッフ
- レポート発行時期：2023年5月～2024年3月（2週に1回1,800字程度のレポートを発行）
- 調査：昭和音楽大学バレエ研究所

### 3. 調査方法

- すでに発表されているメディア報道を対象として調査を行った。
- メディア記事の抜粋翻訳等を中心としてレポートを作成した。
- 一般紙や一般メディアを中心に、業界紙やウェブメディアも対象とした。
- バレエを中心に、ダンスや劇場芸術、また文化政策に関する動向を中心に調査を行った。
- 公演内容等に関する芸術的な話題ではなく、芸術団体の経営や、舞台芸術を取り巻く社会の動向を中心として調査対象とした。公演内容等に関しては専門誌等を通じて情報がある。よって本調査では日本語での情報がほとんどない、団体経営や社会の動向等に関する話題を中心に情報を収集した。

## <調査を行ったウェブサイト>

新聞、テレビ、業界誌、ネットメディア等

- ・ AP News
- ・ BBC
- ・ Broadway World UK
- ・ The Chronicle of Philanthropy
- ・ Classic FM
- ・ Dance Magazine
- ・ The Guardian
- ・ Gramilano
- ・ Harper's Bazaar
- ・ KaleidoScot
- ・ Lifestyle Asia
- ・ The Moscow Times
- ・ Musicians' Union
- ・ The New York Times
- ・ New Republic
- ・ Open Wire
- ・ Reuters
- ・ Sky News
- ・ South China Mronig Post
- ・ The Stage
- ・ The Sydney Morning Herald
- ・ Tass
- ・ The Telegraph
- ・ Wallpaper Magazine
- ・ West Side Rag
- ・ Yorkshire Post

※上記に加えて芸術団体や政府関連団体の公式ウェブサイトやSNS等も調査対象とした。

## 4. 発行レポート概要

(2024年1月31日時点)

発行日	内容
2023年 5月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポリショイ・バレエ団が『ヌレエフ』をレパートリーから除外。LGBT宣伝禁止法により（ロシア）</li> <li>・バレエが「あらゆる体型」を代表するのは不可能だ（英国）</li> <li>・イングリッシュ・ナショナル・バレエ団次期芸術監督アーロン・S・ワトキン氏：「あらゆる体型の人に舞台に上がってほしい」（英国）</li> <li>・新型コロナウイルス後遺症に悩む人々への支援（英国・スコットランド）</li> <li>・サドラーズ・ウェルズ劇場が若年層に向けてダンス教育プロジェクトを開始（英国）</li> <li>・2023年に頂点を迎えるファッショントレンド：バレエコア（香港）</li> </ul>
5月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『ブラック・サバス：バレエ』バーミンガム・ロイヤル・バレエ団公演でヘヴィメタルがクラシックバレエと出会う（英国）</li> <li>・バレエをバレエから救うために（米国）</li> </ul>
6月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バレエ公演市場規模</li> <li>・世界初のAIバレエ作品が上演間近。作品制作の水準が向上（ドイツ）</li> <li>・ニューヨーク・シティ・バレエ団：アジア系女性プリンシパル誕生は記念碑的出来事（米国）</li> </ul>
6月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストラリア・バレエ団ダンサーが賃金交渉の結果、抗議運動を開始：「ツナと米だけでなんとか暮らしている」（オーストラリア）</li> <li>・ロシアという国家に倣い、ポリショイ劇場も中国との新たな絆（ロシア）</li> </ul>
7月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストラリア・バレエ団のダンサーが42年ぶりにスト（オーストラリア）</li> <li>・ファンレイジングイベント開催にあたってすべきこととしてはいけないこと（米国）</li> </ul>
7月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・劇場が観客に環境に配慮した来場経路を提案（英国）</li> <li>・香港バレエの新プロダクションでは恐竜が主役：バレエ団はデジタルに注力しており、制作チームはデジタル技術を創造的に活用（香港）</li> </ul>
8月2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国公演中のポリショイ・バレエ、西側での公演再開に意欲（ロシア）</li> <li>・いかにダンス界はAIを活用すべきか、またテクノロジーは業界にどんな意味があるのか？（米国）</li> </ul>
8月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身長・体重差別を禁止する新法案はいかにダンサー採用に影響をおよぼすか？（米国）</li> <li>・ロシアのオペラ歌手アンナ・ネトレプコがメトロポリタン歌劇場を提訴。ウクライナ侵攻をめぐって出演拒否されたため（英国）</li> </ul>
9月6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バーミンガム・ロイヤル・バレエ団がダンスを身近にするために仮想現実を活用（英国）</li> </ul>
9月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニューヨーク・シティ・バレエ団楽団員らが給与をめぐってスト（米国）</li> </ul>
10月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーズのノーザン・バレエ団が助成金削減のため人員削減、録音した音楽の使用、地方公演スケジュールの見直しを行う（英国）</li> <li>・ノーザン・バレエ団の経営難に対し英国音楽家組合が懸念を表明（英国）</li> <li>・『ブラック・サバス・バレエ』がバーミンガムで話題（英国）</li> </ul>

発行日	内容
2023年 10月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッションブランド「リフォメーション」がニューヨーク・シティ・バレエ団とコラボを開始（米国）</li> <li>・パラノイドとピルエット：「ブラック・サバス・バレエ」はすでに超ヒット作（英国）</li> </ul>
11月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における経営難の影響で実演団体は巨額の寄付金を求めて奔走中（米国）</li> </ul>
11月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パリ・オペラ座のストリーミングサービスである Paris Opera Play がテレビでも視聴可能に（フランス）</li> <li>・米中関係が改善の兆しのなか、アメリカン・バレエ・シアターが約10年ぶりに中国公演開催（米国）</li> </ul>
11月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア政府：ボリショイ劇場についての判断は下されていない。プーチン大統領は劇場総裁を任命していない（ロシア）</li> <li>・ボリショイ劇場ウラジミール・ウリン総裁が辞任予定（ロシア）</li> <li>・世界のバレエ学校が aDvANCE で一同に会し、将来の協力を約束（英国）</li> </ul>
12月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プーチン支持派のヴァレリー・ゲルギエフがボリショイ劇場トップに就任（ロシア）</li> <li>・王女様が舞踏会を開催し、気弱な青年を助け出す時（英国）</li> </ul>
12月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中口関係が経済面で緊密になる中、バレエ・演劇・音楽等における文化交流もさかんに（中国）</li> </ul>
2024年 1月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くのバレエダンサーがボディシェイミングといじめを告発（英国）</li> </ul>
1月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラッセル・マリファント：ダンス作品のテレビ放送は芸術の鑑賞機会確保のために必須（英国）</li> <li>・「誰がこんな額を支払えるの？」：ニール・サイモン作品の演劇公演チケットが395ポンドであることに演劇ファンが反応（英国）</li> </ul>

※2024年2月7日、21日、3月6日、19日にも発行予定